

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和4年3月31日

事業所名 一宮市とはぼっほ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		子どもの特性など配慮し、また感染予防に努めながら場所の使い方を工夫しています。	
	2 職員の配置数は適切である	5			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	1		施設のバリアフリー化は難しい。利用者が安全に過ごせるようウレタンマット敷くなど環境を整えている。また、雨の日は迎えに出るなど配慮や声掛けをしています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		コロナ対策も含め、安全に過ごせるように随時消毒をしています。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5		話し合いの際には確認し合っています。	職員一人一人が意識して取り組みをしています。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		保護者の意向などを出せるように関係を築いていきます。保護者の意向を職員間で話し合い、業務改善をおこなっています。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		毎年ホームページで公開しています。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5		療育支援事業や外部の方を招いての勉強会など実施しています。	外部評価を踏まえて業務改善につなげています。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		定期的な研修の実施、外部研修も積極的に参加しています。	
	適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5		子どもの特性や姿を把握し、保護者の意向を踏まえ児童発達支援計画を作成しています。
11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		5			アセスメントツールはあるので、使用していきます。
12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている		5			
13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている		5		毎月の目標もあり、確認しながら支援をしています。	
14 活動プログラムの立案をチームで行っている		5		年間計画があるが、職員全体で話し合い、進めています。	
15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している		5		子どもの姿に合わせた活動を日頃から考慮した上で、いろいろ取り入れながらやっています。	
16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している		5		子どもの姿に合わせた活動を日頃から考慮し、計画を作成しています。	
17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		5		職員全体で朝の打ち合わせや1日の流れや支援、配慮等も必ず確認しています。	
18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		5		支援終了後に必ず職員全体で振り返りを行い、確認や改善など共有しています。	
19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている		5		子どもの姿や支援の内容など記録し、支援の検証、改善につなげています。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している		5		定期的なモニタリングで保護者の意向や、子どもの状況を踏まえ見直しをしています。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5		必要に応じて連絡し、支援につなげています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5			必要な時には関係機関と連絡を取り合い、支援につなげていきます。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		5		一部の医療関係機関とは連携しているが、すべてが連携できてない。サマリーや保護者からの聞き取りで対応しています。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	2	特別支援学校の見学会の同行や保育園併用児については保育園との情報共有をしています。	相手先が情報共有に対応しづらいところもあるので対応策を検討中です。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		5		移行先が小学校、特別支援学校の小学部ではありません。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5		積極的に研修会に参加しています。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5			必要な方には、園庭開放を紹介していますが、コロナのためできていません。また、子どもの特性上難しいので違う形で交流を検討していきます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5			依頼があれば参加します。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	5		親子通園のため、日頃から伝え合い、話す時間もあり、共通理解をできるようにしています。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5		定期的に勉強会を実施している。主旨を伝え、参加を促しています。		
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		契約時や必要ときには時間を作り丁寧な説明をしています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		親子通園のため、日頃から相談に応じ、支援しています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5		参加の促しや活動の支援をしています。先輩の保護者とのつながりも大事に支援しています。	父母の会の活動もコロナの為、オンラインで行いました。今後は、安心して参加できる対策をとり、対面での活動に戻していきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5		相談や申し入れがあった時は、親子通園のため、日常的に時間を作り対応しています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	1	年間計画で行事予定等を発信しています。活動などの連絡は、ホワイトボードでお知らせと口頭でも発信しています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5		保護者については契約時に説明しています。職員には、書類などの持出しの禁止や管理について徹底しています。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		日頃からコミュニケーションをとり、話し易い雰囲気を作っています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5		事業所の場所も関係し、難しく実施できてません。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		5	色々な想定をし訓練を毎月実施し、職員、保護者に周知しています。	準備してるものもあるが、全てに対応が出来ていない。マニュアル等策定し実施できるよう進めていきます。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		5	色々な想定をし訓練を毎月実施しています。		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している		5	入園時に保護者に状況を確認と親子通園のため、登園時に聞き取りしています。		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		3	2	入園時に保護者からの聞き取りをしています。(本年度は対象児なし)	指示書が必要か検討します。(保護者同伴で通園しているため)
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		5		事例集はないが、振り返りの時間にも確認し、記録に残し、職員間で共有しています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		5		資料や通知文書は職員全員が閲覧しています。	研修会があれば積極的に参加していきます。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		5		職員間で身体拘束について話し合い、確認をしています。保護者に日頃から説明し、ヘルト等は保護者に留めてもらうようにしています。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

